

生物・医薬品工学研究センター 講演会

Your cancer, Your cells, Your cure
iPS細胞由来のキラーT細胞を用いた
自家移植によるがん免疫療法の開発

等 泰道 博士

サイアス株式会社 代表取締役



近年免疫チェックポイント阻害剤やキメラ受容体発現T細胞を使ったがん免疫療法が、一部のがんに高い有効性を示している。しかしながら、これら療法の適応や薬効が限定的である事から、新たながん免疫療法の導入が切望されている。京都大学金子准教授のグループは、腫瘍に対する殺傷能力の低下したキラーT細胞を一旦iPS細胞へ初期化させてからキラー活性の高いキラーT細胞(再生キラーT細胞)へ再分化させることで、がん細胞への高い攻撃性を有するキラーT細胞を作製できることを見出した。再生キラーT細胞を用いた治療方法はこれまで治療手段がなかった重篤ながん患者にも有効な治療手段になる可能性がある。京都大学発のスタートアップ企業であるサイアス社ではこの技術を基に再生キラーT細胞を用いた自家養子免疫療法の開発を進めている。本セミナーではその研究開発の状況をご紹介します。

日時： 2020年1月24日（金） 17:00 – 18:30

場所： 富山県立大学

生物・医薬品工学研究センター1階 K-115室

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

富山県立大学工学部 医薬品工学科 担当：長井 良憲

TEL: 0766-56-7500（内線1911）

E-mail: ynagai@pu-toyama.ac.jp